

CAROWAA

CAROWAA —ちやろわ

アチヨリの言語で「our village」「our home」「our land」といった意味を持つ言葉です。

JICAプロジェクトとともに自分たちの故郷がより発展する、という気持ちを込めて、グルオフィスの現地スタッフが名づけてくれました。

ちなみに配色イメージは北部らしく「ラテライト」です。



アフリカ部より佐野課長がウガンダ北部を視察

8月はグルを訪問する出張者が相次ぎ、ドタバタなグルオフィスとなりました。16～21日の国際開発ジャーナル・中坪編集次長の取材を皮切りに、17～22日にはお茶の水女子大学の内海教授と学生2名、25～28日には本部より小向専門員、ウガンダ事務所七海所員、新人OJT中の高橋職員、龍谷大学の齋藤教授、26～28日にはアフリカ部より佐野課長の視察が続きました。

特に佐野課長、小向専門員の出張は「北部復興支援プログラム」策定にかかる現地視察として非常に重要なものでした。限られた日程中、アムル県、ヌウオヤ県、キトゥグム県、ラムウォ県、パデル県を走破し、ドナー機関との面談、IDPキャンプ、帰還先コミュニティでの聞き取り調査、CAOとの面談など、分刻みのスケジュールをこなしました。現場の声をぜひ「北部復興支援プログラム」策定に反映させてほしいと期待しています。



帰還先の村で聞き取り調査をする小向専門員(右から2人目)



道路チーム・南団員(左)より説明を受ける佐野課長(左から2人目)



FAOのネリカサイトを視察する中坪編集次長

国際開発ジャーナル・中坪編集次長はなんと5度目のグル訪問。プロジェクト進捗状況の視察に留まらず、今回は2007年にアカデミー賞長編ドキュメンタリー部門にノミネートされ、世界的に有名になった映画「ウォードダンス」の舞台となった小学校を訪ねるなど、精力的な取材を行いました。

また、お茶の水女子大学の内海教授は元JICA国際協力専門員であり、復興期にあるウガンダ北部の教育事情について、学生に指導しながら調査を行いました。一方、龍谷

大学の齋藤教授は北部地域CAOを対象とした国別研修(裏面の記事参照)のコースリーダーを担当するため、アチヨリ地域各県の地方行政状況などの情報収集を行いました。

多くの出張者がグルを訪れることは大歓迎ですが、なんせ人員不足のグルオフィス、道路チーム、コミュニティ開発チームに協力してもらいながらアレンジのために現場を走り回り、嬉しい悲鳴の1か月間でした。

WEB上でニュースレターが見られるようになりました!



「ニュースレターはネット上で見られないのですか?」という問い合わせを受けることがたまにあったのですが、ウガンダ事務所のホームページからアクセス可能になりました。ダウンロードしやすいよう、配信用のものよりサイズを若干小さくしたグルオフィスニュースレターが第1号から閲覧できます。お時間のある時にぜひご覧ください。また、実施中の2案件「アムル県総合開発計画策定支援プロジェクト」「アムル県国内避難民帰還促進のためのコミュニティ開発計画策定支援プロジェクト」のホームページ内「プロジェクトニュース」も月1回程度更新していますので、併せてご覧ください。

ウガンダ事務所ホームページ

<http://www.jica.go.jp/uganda/index.html>

アムル県総合開発計画策定支援プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/project/uganda/0901623/index.html>

アムル県国内避難民帰還促進のためのコミュニティ開発計画策定支援プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/project/uganda/0901771/index.html>

北部地域CAO 日本での研修に出発！



研修員を前に開会のあいさつをする
平井プログラムマネージャー



ウガンダ事務所での研修事業を担当する
レステさん(左から2人目)



ラジオ番組に出演中の
レステさん(左)とCAO3名



新聞に掲載された北部プロジェクト紹介広告

9月12日から10月8日まで、JICA東京国際センターにて国別研修「ウガンダ北部地域行政官能力強化」が行われています。これは「北部復興支援プログラム」の一環として実施される初の研修事業で、北部12県のCAO (Chief Administrative Officer: 首席行政官)と県行政を管轄する地方自治省、北部復興支援を担当する首相府職員を対象に、計14名の研修員を送り出しました。

出発に先立ち、9月2日、研修員となるCAOのモチベーションや結束を高めるとともに、JICAプロジェクトへの理解を深め、今後の協力を求めるために合同会議を開催しました。平井プログラムマネージャーより研修員への期待を述べた後、実施中のJICAプロジェクトを説明し、その後ウガンダ事務所での研修事業を担当しているレステさんより研修員としての心得、出入国時の注意事項、持ち物につい

での説明やアドバイスがあり、研修員一同、食い入るように聞いていました。上田企画調査員からは日本の文化や習慣についてのブリーフィングを受け、お辞儀の仕方や箸の持ち方を全員で実践し、非常に盛り上がりました。

ほとんどの研修員は外国旅行が初めて、しかも行き先は電子機器で有名な日本とあって、研修に関する質問に留まらず、「デジカメやパソコンはどこで買えるのか」といった質問も飛び出しました。

この機会にJICAのウガンダ北部への協力内容を広報するため、会議前日には隔週オンエア中のラジオ番組にレステさんと派遣されるCAO3名がゲスト出演。研修への抱負を語ってくれました。また、研修初日に合わせてウガンダ国内で最大発行部数を誇る新聞「New Vision」紙に紹介広告を掲載。全国に北

部プロジェクトの概要や研修員の派遣を写真入りで知らせることができました。

ちなみに広報担当の上田企画調査員は広告イメージがきちんと伝わるか不安だったためNew Vision本社に乗り込み、入稿時間ぎりぎりまでデザイン部門のスタッフに付きっきりでレイアウトを指導、最後は席までもらって自ら入力していました。おそらくこんな顧客は初めてだったことでしょう・・・。

ウガンダ北部の発展のため、研修員が日本から多くの学びを持ち帰ってくれることを期待しています。

アチョリの名勝「Awere Hill」



上りは直角のような岩を駆け上がるが(左)、下りは助けが必要。
ガイドに手で足場をつってもらう平井プログラムマネージャー(右)



頂上からの眺めは最高！深緑が美しい。



これが聖水！？

アチョリの名勝シリーズ、第2回はグル県とパデル県の境に位置するパワースポット「アウェレ・ヒル」をご紹介します。

この地域はLRA(神の抵抗軍)のリーダーとして悪名高いジョセフ・コニーの出身地であり、彼はこの丘の聖水で身を清めることによって神がかり的な力を得たと言われています。丘といっても草原に巨石が横たわっているだけなのですが、ここにたどり着くまでがひと苦勞。近隣住民にガイドをお願いし、2メートル

以上もあるメイズでうっそうとした畑の中を10分ほど歩くと突然巨石が現れます。表面の凹凸だけを頼りに、急斜面を上りますが一歩踏み外したら命にかかわりそうです。

巨石の頂上に到達するとまるで別世界！360度サバンナの地平線を見渡せ、地球が丸いことを実感できる、風光明媚な場所です。

肝心の聖水は岩の割れ目に溜まった水とのこと。ただの汚い雨水で、どう見てもパワー

を秘めているとは思えません。子どもの遊び場らしく、落書きが多く見られます。コニーもおそらく幼少時代ここで遊んでいたことが、いつしか脚色されてパワースポットとして扱われるようになったのでしょう。

とはいえこの景色は最高。ハットを建てて観光客向けのパーでもやろうかなと思った上田企画調査員でした。